

雜報

陸軍二等軍醫正從五位勳四等 石原貫一

(五月二十九日)

任朝鮮總督府道慈惠醫院醫官
扶桑乘組被免陸奧乘組被仰付

(五月二十九日)

海軍軍醫少尉 木村芳雄

(六月一日)

扶桑乘組被免陸奧乘組被仰付
免兼職 吳鎮守府附兼吳海軍病院部員海軍軍醫大佐

(六月一日)

海軍軍醫大佐 砂堀雅人

(六月一日)

免吳鎮守府附補海軍兵學校軍醫長兼教官

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

兼吳鎮守府附被仰付

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

在外研究中俸給十分ノ三ヲ支給ス

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

任陸軍二等軍醫正

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

任陸軍三等軍醫正

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

任陸軍三等軍醫正

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

任陸軍三等軍醫正

海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐

(六月十一日)

砂堀雅人

(六月十一日)

（五月二十六日）

○岡本英一君　曩日渡歐せられたる同君は二月下旬ベルンに着し直ちに同地大學に入學せられたり尙ほ同君への書信は左記宛にせらるべし

Bei Japanischer Gesandtschaft,
Bern, Schmeiz.

○田中文男君　は月餘の旅行せられ四月下旬伯林に歸來暫時休養、六月上旬再び巴里を経て英國に入り八月下旬歸朝せらるゝ豫定なり

○大森大亮君　は四月下旬ウインを出立し巴里に赴き約一箇月間位同地に滯在し歸朝の途に上らるゝ豫定なり

○蓮井直衛君　多年京都帝國大學醫學部島蘭内科に於て研究に從事し居られし同君は今般本縣倉敷町倉紡中央病院の聘に應じ就職せられたり

○赤木元藏君　は大阪市北區本庄中野町濟生會大阪府病院に勤務し居られしか今般本縣倉敷町倉紡中央病院外科に轉勤せられたり

○松田國重君　は豫て兵庫縣武庫郡蘆屋岩崎醫院に勤務し居られしか今般大阪市南區谷町六丁目薄病院に轉勤せられたり

○赤尾壽君　は本年四月より撫順滿鐵醫院に勤務し居られたり

○福原謙君　は今般令兄と住所を交代し廣島縣賀茂郡八本松朝日通に移轉し依然診療に從事せられたり

○富岡諒一君　は大正九年岡山醫學專門學校卒業以來島根縣立松江病院に勤務し居られしか今般辭職郷里本縣吉備郡阿曾村に於て開業せられたり

○田丸要槌君　豫て當市島村眼科醫院に勤務し居られし同君は本月中旬より自宅(當市廣瀬町)に於て開業し午後は依然島村眼科醫院に於て診療に從事せらる

○清谷壽君　は本月一日より本縣吉備郡足守町に於て開業せられたり

○岡暢君　は豫て神戸市須磨浦療病院に勤務し居られしか今般同院を辭し本縣吉備郡服部村に於て開業せられたり

○下垣義知君　多年縣立松江病院に勤務し居られし同君は今般同院を辭し島根縣邇摩郡溫泉津町に於て開業せられた

○藤井普一郎君 は過般大阪市西區市岡町に移轉開業せられた
れたり

○稻富一郎君 は今般鳥取市吉方町に移轉開業せられた
り

一日の教授會議に於て學位授與の決定ありたり其主論文は
左の如し

切除セル家兔腸管ノ輪狀及ビ縦走筋肉ニ對スル藥物ノ
作用ニ就テ

池山精一君逝く 君は明治三十九年岡山醫學専門學校
を卒業し愛媛縣越智郡櫻井病院に於て診療に從事し近
年今治市藏敷に移轉開業し居られしが去三月二十七日
病を以て遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へざるなり

廣瀬信孝君逝く 君は明治四十四年岡山醫學専門學校
を卒業し豫て令兄と島根縣美濃郡都茂村に於て協同病
院を經營し其外科部長として診療に從事し居られしか
去月二十一日突然急病にて遠逝せられたりと洵に痛惜
に堪へざるなり

○學位授與決定 井上秀男君は豫て論文を京都帝國大學醫
學部に提出し醫學博士の學位を請求し居られしか去月二十